

朝日 歌壇 俳壇

第42回 朝日俳壇賞

2025年の入選句から4人の選者が1句ずつ選びました。受賞者に賞状と記念品が贈られます。朝日歌壇賞は来週掲載します。

【評】一句目、鷹を放つ鷹匠の仕草はまさに「送り出す」気持ちだと納得する。二句目、紅白の紐についている房もまた伝統の新春寸景。三句目、恐竜の後しぼらくはヒトが繁栄したついでと回想する海風。四句目、正月の家族写真に淑気満ちて。



小林貴子 選
去来忌や俳句は今も無用の用
(さいたま市) 佐藤勇治郎

【評】縣さんの句は長年拝見してきた。淡々として深い世界。精進のたまものか。



長谷川權 選
ふるさとの山とくまの雪の山
(長野市) 縣 展子

【評】戦争は正に「人生を狂はす」最悪最大の凶器。再び戦争をしてはならない。



大串章 選
人生を狂はす戦敗戦日
(石川県能登町) 瀧上 裕幸

【評】「亀鳴く」はロゴス言葉の中だけの出来事。俳句自体の暗喩であろう。



高山れおな 選
亀よ亀こがロゴスだこで鳴け
(大阪市) 上西左大信

☆印は共選作。掲載作は記事への引用や、電子メディアやSNSへの掲載・収録をすることがあります。投稿は無地のはがき1枚に1作品、未発表の自作のみ。作品の横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104・8661 清海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。二重投稿は不可。選者が添削する場合があります。

送り出すやうに鷹匠鷹放つ
(四日市市) 渡邊 明廣
お年賀の中は知らず紐の房
(町田市) 藤巻 幸雄
こんな夜は人類偲ぶ海風かな
(神戸市) 山口 誠
シャッターを待つ家族です淑気です
(東京都練馬区) 吉竹 純
正面から向き合つてみる飾海老
(富士市) 村松 敦規
冬眠の冷たいからだ灯すなり
(神戸市) 豊原 清明
抜け感とかこなれ感とか冬うらら
(奈良市) 中島 澤
ていねいに命扱へ寒卵
(東京都足立区) 三角 逸郎
寒い日にバイクの二人乗りしたね
(日光市) 土屋 恵子
何だつて燃やしてしまふ焚火かな
(周南市) 松岡 哲彦

【評】一句目、鷹を放つ鷹匠の仕草はまさに「送り出す」気持ちだと納得する。二句目、紅白の紐についている房もまた伝統の新春寸景。三句目、恐竜の後しぼらくはヒトが繁栄したついでと回想する海風。四句目、正月の家族写真に淑気満ちて。

今年こそ逢おうと賀状今年又
(愛知県東郷町) 有元 洋剛
人里の熊は撃つべし悼むべし
(東京都世田谷区) 野上 卓
尿意ありデュシヤンの泉凍ててをり
(水戸市) 加藤木よういち
見上げたるハルカスこれも初景色
(大阪市) 上西左大信
遅しき泥付きの薺届きけり
(札幌市) 伊藤 哲
冬麗にエリック・サティ似合ひけり
(東京都府中市) 志村 耕一
山眠る月の輪熊を眠らせて
(草津市) あびこたろう
病む海に静かに浮かぶ牡蠣殻
(姫路市) 松田 正義
若人と大焚き火して神迎ふ
(那珂川市) 松川八智代
ひとまはり大きくなつて山眠る
(仙台市) 武田 道直

【評】一席。これこそ年賀状の極み。「今年又」が俳言。二席。「敵国の兵は」とどう違うか。世相への疑問。三席。白い便器に「泉」と名づけたマルセル・デュシャンよ。今や俳句の題材。十句目。原句は「小さく」。やはり「大きく」か。

老いぬれば楽し淋しと日向ぼこ
(長野市) 縣 展子
冬薔薇微煙に一輪咲き誇る
(加古川市) 森木 史子
右巻きと左巻き居て独楽廻す
(東京都中野区) 吉田 徹夫
無人駅だれを待つやら雪女
(仙北市) 安部 哲男
満天の星と語らふ枯木かな
(長崎県波佐見町) 川辺 酸模
枯木宿秘境をめぐる一人旅
(大津市) 星野 暁
「嫉妬」なぜ女偏かと冬の問ひ
(東京都葛飾区) 福島 隆史
焚火の輪解けてそれぞれ家路かな
(大津市) 小見 伸雄
白鳥の来て村人は誇らしげ
(尼崎市) 田中 節夫
湯豆腐や今さら力むこともなし
(東京都杉並区) 黒澤 克昭

【評】第1句。「楽し淋しと」が如何にもお年寄りの日向ぼこらしい。喜怒哀楽を乗り越えて来た人生。第2句。「咲き誇る」が晴れ晴れとして力強い。人間も斯くあるべきか。第3句。右利きの子と左利きの子が独楽を廻している。楽しそう。

隠沼の衣をひらく鴨の水脈
(神戸市) 山口 誠
書くことの全てのために寒夜来る
(京都市) 山岡 俊介
冬の夜の夢にあの娘で無いあの娘
(藤沢市) 朝広三猫子
よく生きて塵とならばや冬銀河
(長崎県波佐見町) 川辺 酸模
無理筋の願ひも加へ初詣
(大阪市) 上西左大信
冬將軍通り過ぎたる朝の庭
(いわき市) 岡田 木花
押しくら鰻頭あの子と目鼻入れ替はる
(宝塚市) 半井茉莉子
寒林は鳥籠のやう樹下に座す
(いわき市) 中田 昇
翁ひかし風の子雪の子津軽っ子
(青森市) 天童 光宏
記憶なきマスク美人に礼返す
(横浜市) 下島 章寿

【評】山口さん。草木の蔭に見え隠れになった水面の微かな揺らぎ。「衣をひらく」とは美しく言ったもの。山岡さん。執筆意欲に燃え、感覚は牙え。星野立子にひらひらと寒さがなびく歩みゆい。朝広さん。なにやら意外な華がうきうきと